

対馬のナガハナアブ属・トゲナガハナアブ属

境 良朗

対馬のナガハナアブ属*Milesia*及びトゲナガハナアブ属*Spilomyia*を3種確認しているので若干の生態的知見とともに報告する。標本は全て筆者採集。

1) シロスジナガハナアブ *Milesia undulata* Vollenhoven, 1863

- ・7♂, 対馬市美津島町紅葉山, 20. V. 2012 (写真1上)
- ・1♀, 対馬市厳原町久田, 10. VI. 2010 (写真1下)

その他、上県町御岳山頂、美津島町城山山頂でも確認できた。♂は山頂に集まる傾向があるようだ。写真1下の個体は、採集後にフィルムケースに入れておいたところ、ケース内に花粉がべつと付着していたので訪花性が推測されるが確認できていない。観察できた出現期は5月上旬（5日）～6月上旬（10日）である。

2) ムツボシナガハナアブ *Milesia oshimaensis* Shiraki, 1930

- ・8♂, 対馬市厳原町椎根, 10. VIII. 2018 (写真2上)
- ・2♀, 対馬市厳原町豆酸, 27. VIII. 2011 (写真2下)

南西諸島を主な生息域とする南方系の大型美麗種である。いわゆる九州西廻りの分布型を示す昆虫で、対馬海流の影響を受けて生息域を広げたと思われる。恐らく幼虫または蛹の段階で穿孔した流木に乗って対馬にたどり着いたのであろう。京都府冠島からも記録がある。

厳原町豆酸崎でアカマツの伐採木に（写真4）、厳原町椎根ではスギの伐採木に数頭の♂に混じって産卵に訪れたと思われる♀が観察された（写真5・6）。針葉樹が好まれるようである。訪花植物としてヤブガラシを確認している。出現期は7月下旬（31日）から9月上旬（10日）で、盛夏に現れるハナアブといえるだろう。

3) スズキナガハナアブ *Spilomyia suzukii* Matsumura, 1916

- ・1♂, 対馬市厳原町豆酸崎, 18. X. 2008 (写真3上)
- ・1♀, 対馬市厳原町西泊（殿崎）, 14. VII. 2015 (写真3下)



写真1 シロスジナガハナアブ

写真2 ムツボシナガハナアブ

写真3 スズキナガハナアブ

上記の他に、厳原町内山、厳原町久田、上県町中山のわずか5例記録しただけである。訪花植物としてリョウブ（2013年7月26日内山）とブッドレア（2013年9月28日久田）を確認している。出現期は7月中旬（14日）から10月中旬（18日）であった。



写真4 アカマツの伐採木



写真5 アカマツの枯れ木で休む♂



写真6 スギの幹上の♀

最後になるが、日頃よりハナアブ全般についてご教示いただいている市毛勝義氏にお礼申し上げる。

参考文献

- 市毛勝義・境 良朗, 2020. 対馬のハナアブ. はなあぶ, (50); 51-58. 双翅目談話会
池崎善博, 1976. 対馬産のハナアブ科. 対馬の生物, 329-339. 長崎県生物学会
池崎善博, 1977. 対馬龍良山のハナアブ科. はなあぶ, (3); 51. 双翅目談話会